

二〇五六番

あまがは 天の川 うちなした 打橋渡せ いろ 妹が うち 家道 や 止まず かのよ 通はむ  
とき 待たずとも

二〇五七番

つきかき 月重ね あ おも 我が思ふ いろ 妹に あ 逢へる 夜は いま 今し 七夜を  
つぎ 継ぎこせぬかも

二〇五八番

としよそ 年に装ふ わが 舟漕がむ あま 天の川 かぜ 風は吹くとも  
なみた 波立つなゆめ